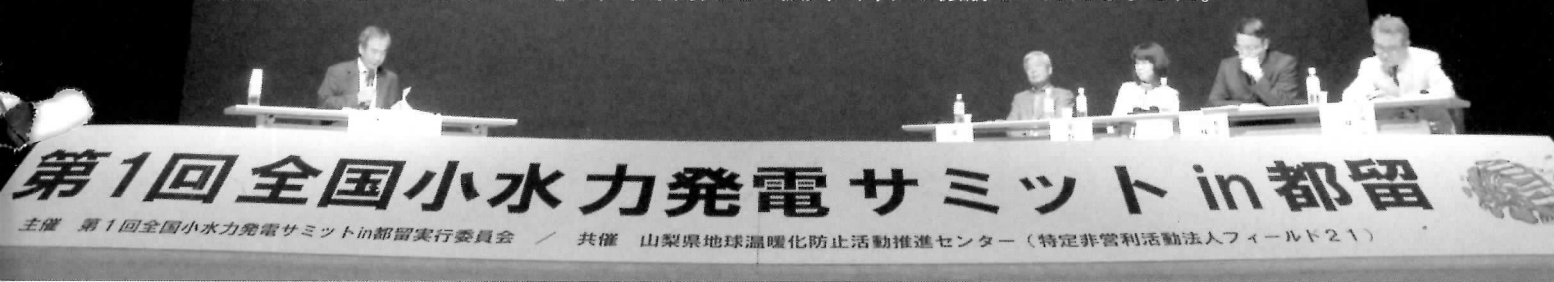


第1回全国小水力発電サミット in 都留 ～流れる水で地域が輝く～

10月16、17日の日程で、「第1回全国小水力サミット in 都留」が開催されました。2日間ともに、北海道から九州に至るまで、日本全国から小水力発電に関心を持つ個人や団体など、大変多くの方が参加しました。

1日目は、元気くん2号の見学会と、都の杜うぐいすホールでのシンポジウム、交流会が開催されました。シンポジウムはNHKアナウンサーの国井雅比古氏をコーディネーターに迎え、小林市長ほか3名のパネラーが小水力発電の可能性とこれからの課題について意見を交換しあいました。2日目は、都留文科大学において4つのテーマに別れて分科会を開催し、小水力発電に関わる事業を実践してきた方々から、大変貴重な報告をいただきました。また、この2日目の閉会式には鳩山由紀夫・前首相も駆けつけ、「身近な水車は地球温暖化対策を進めるためのカギ」と、小水力発電の振興に対する激励をいただきました。



主催 第1回全国小水力発電サミットin都留実行委員会 / 共催 山梨県地球温暖化防止活動推進センター（特定非営利活動法人フィールド21）



10月16日 午前 家中川小水力市民発電所 「元気くん2号」セミナー

「全国小水力発電サミット in 都留」の第1日目は、「元気くん2号」セミナーから始まりました。朝から都留市役所前には、全国から参加する人たちの乗ったバスや車が続きと集まり、セミナー開始時刻の10時30分には、会場である市役所3階の大会議室は、満席となりました。

まず、日本小水力発電株式会社の中込修史氏、全国小水力利用推進協議会の金田剛一氏、中島大氏の3人から、小水力発電の利点についての説明や、電気関係の技術的な話、そして、元気くん2号の特性についての講義が行われました。

そしてその後、実際に発電をしている「元気くん2号」の現場へ向かい、発電の様子や水車の見学を行いました。



現場では、迫力のある「元気くん2号」を目の当たりにし、多くの方が驚きの声をあげていました。

セミナーには、小水力発電を行うことを検討している団体や自治体職員も多数参加しており、具体的な送電の仕組みや発電実績などについて、説明者に熱心に質問をしていました。今や「小水力発電の代名詞」と言っても過言ではないほど有名になった「元気くん」ですが、これほど多くの方が一同に会し、見学に訪れたことは初めてでした。こうして、大盛況のうちに「元気くん2号」セミナーは終了しました。